

平成28年度 長野県岩村田高等学校の教育方針と目標に対する評価

本校の教育方針			
1 心身の調和のとれた健全な人間の育成			
2 協調性に富み、道理をわきまえ、円満な団体生活を営み得る人間の育成			
3 現代文化に貢献し得る基礎的学力を具備した人間の育成			
4 質実剛健にして勤労を愛好する人間の育成			
5 自主的・意欲的で創造性の豊かな人間の育成			
中・長期的目標	今年度の重点目標	自己評価	成果・今後の課題等
1 急速な社会の変化に対応して生き抜いていく力を、生徒に確実に身につけさせる。	① 教師一人一人が創意工夫をし、生徒が自主的に学習でき進路実現を支援するために学力向上をはかる事ができる学習環境づくり	B	①機器を活用したりグループワークを取り入れた授業、互見授業等とおして、生徒が主体的に学習できる環境づくりに努めている。大学入試制度改革や学習指導要領の改訂を踏まえ、更に授業研究、改善に取り組んでいく。 ②生徒会活動、キャリア研究発表など様々な特別活動とおして、生徒達が活躍する姿が見られた。今後も、自己有用感が得られる活動を提供していく。 ③文武両道を基本として教育実践できたが、今後も過程を大切にした教育活動を実践していく。また、積極的な情報発信とおして開かれた学校づくりに取り組んでいく。 ④アンケートによる、いじめ・体罰等の実態調査を実施し、個々の事例に対応することができた。今後も生徒の状況を的確に把握し、必要に応じて外部と連携して迅速に対応できるようにする。
2 本校に対する地域の要望を積極的に受け止め、開かれた学校を実現する。	② 特別活動等とおして心身の健全な発達を促す学校づくり		
3 学校再編を控え、より充実したカリキュラムの編成を研究する。	③ 文武両道を基本として生徒・保護者・地域の願いに応えられる開かれた学校づくり ④ いじめや体罰のない、生徒が安心かつ安全に過ごすことができる学校づくり		

分野別の評価項目と具体的活動

領域	分野	評価（指導）項目	具体的活動（評価の観点）		自己評価	成果・今後の課題等
教育活動	学習指導	教育課程の改善	教育課程の研究および検討	新入試に向けた教科横断的な学習が行えるような教育課程の素案をつくり、実施に向けた準備とする。生徒の進路希望に添った科目選択を行えるよう調整を行う。	B	【成果】選択科目の精選により、効果的な科目選択ができるように工夫した。 【課題】探究的な学習をふまえた次の教育課程作成の準備が早期に必要である。
		学力の定着・向上	学習条件の整備	学力の定着と向上を目指すため、放課後の学年別学習室の開設（4月～）、3年進学補習（長期休業・始業前・放課後）・模試（1年3回、2年4回、3年7回）学習合宿等を計画実施する。進路係と学習指導委員会とが連携しながら「進路・学習の手引き」を毎年改編し、年度当初より活用させる。	B	【成果】ほぼ計画通り。 【課題】特編のあり方、計画等進路係と連携をはかりながら「岩高モデル」の更なる定着をはかりたい。普通単独校として継続的に実施してきた流れを次年度以降も継承する。
			家庭学習習慣の定着	自学自習の意義を理解させ1、2年生は「平日2時間、休日3時間または週21時間以上」の家庭学習時間確保を目標とさせる。各学年で計画・実施する学習への動機付け、学習習慣の定着を図る。またその補助となるよう各教科で年間を通した計画的な平日課題・週末課題を課し、各自手帳（sumate）に学習の記録をつけさせ、担任ばかりでなく教科担任も個別相談の判断材料としてその記録を活用する。	B	【成果】ほぼ計画どおり。進路の手引きを有効に利用することが出来た。各学年用の学習室を設置し意識の向上をはかった。また、施設担当当番に関しては進路・教務と連携しある程度の形をつくることができた。放課後補習や特編授業などにおいて学習室の利用団体の状況を周知することができた。 【課題】低学年のうちから、家庭学習の必要性や時間を確保する手立てを学年主導で考える必要がある。
		人権・平和教育の充実	人権・平和教育の充実	全校人権教育を中心に、今ある人権問題について具体的に提起し、生徒が現状を理解し解決策を考えることができる場を設ける。	A	【成果】全校人権教育を映画『あん』の鑑賞とし、ハンセン病に関する生徒の理解が深まった。 【課題】次年度以降継続的に何を行うかの検討が必要。
	進路指導	進路目標の明確化	3年間を見通した進路年間計画の設定	3年間を通じた進路計画のもとに各学年ごとの進路目標と計画をたて、指導に生かす。（3年間を通じて目指すものは生徒の自己管理能力をつけ、自らの考えて学べる姿勢を養うこと）個々の生徒の進路実現のために個別相談、生活リズム・学習の方法などを示し、生徒一人一人への丁寧な指導を行っていく。	B	【成果】特に、模試においては事前に過去問等の対策を各学年・教科で実施した。プリントやマナビジョンページを利用することができた。個別相談等はこまめに実施し、生徒の把握に努めることができた。 【課題】模試実施後の復習の徹底。生徒個人にゆだねがちであるので、学校としてClassi等の導入の検討。
		進路情報の提供	職員の進路情報共有	職員会議や進路研究会を通じて、生徒の実態や進路指導対策について係より資料提供をし、情報の共有をはかる。模試分析会を定期的に行い、必要な対策について検討し実践する。	B	【成果】進路研究会を実施し、学年生徒の情報を共有できた。模試の結果を職員会で提示。学年毎の模試検討会を実施。外部の業者を招き、分析を依頼した。 【課題】模試分析会においてより多くの先生方に参加して現状の理解を促す。
			生徒への情報提供	「進路通信」や進路講演会、掲示物、情報誌、個人面談を通じて、生徒が進学先についての研究・検討ができるような手助けをする。特に3学年については、「進路通信」と合体した「3学年通信」を発行し、「今何をすべきか」を伝えつつ、受験指導を行う。	B	【成果】3学年に対して必要なときに進路から通信・プリントを発行してきた。特にセンター試験に向けての学習や生活など適切なアドバイスを実施できた。 【課題】1・2年生に対する通信の発行が十分でなかった。新テストに向け多様な情報を提供して聞く。
	保護者への情報提供	保護者への情報提供	「保護者のための進学講座」を開講し、進学に関わる現状や保護者に知ってもらいたいことなどを伝え、本校の進路指導のあり方を理解してもらう。また、PTA支部総会や学年・学級PTAを通じて、本校の進路指導の活動や進路結果を提供する場とする。	B	【成果】保護者のための進学講座を4回実施。多くの保護者の参加を得た。アンケートからも実施の有用性の意見が多かった。 【課題】学年において置かれている課題が違うので進路講座の実施方法の検討。	
	キャリア教育の充実	キャリア形成と情報の提示	総合的な学習の時間等に講演会・ガイダンスを計画し、学ぶ力・生き抜く力を身につけさせる。1年生対象に調べ学習・研究を行い研究発表会において、自己探求や他の生徒から等の情報を共有し自ら発信する力を養う。大学見学やインターシップ、企業見学等を利用し、キャリア形成のための継続指導を行う。卒業生の講話や大学公開講座、ガイダンスへの積極的な参加を促し、進路意識を喚起する。各種体験学習への参加を呼びかける。	A	【成果】医療系・保育系の分野を中心に、職場体験を積極的に行い、進路意識を高めることができた。また、1年生は学習合宿を通じて進路実現に向けた学ぶ力を身につけた。2学年では、各自がキャリアについて調査・研究を行い、代表者がその成果を佐久平交流センターにて発表を行い、情報を共有した。夏には、卒業生を招き、受験に向けてのアドバイスを授かった。佐久総合病院の医師をはじめとする医療従事者に来校してもらい、進路決定の貴重なアドバイスをいただいた。 【課題】職場体験の分野に偏りが見られたので、さらに専門職の分野での受け入れ事業所の開拓を進めたい。	
	生	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立	集団の中でルールを守って生活する基本的な生活習慣を身につけさせる。無断欠席・遅刻のないよう指導する。さらに明るく挨拶のできる習慣を身につけ、きちんとした身だしなみをこころがけるよう指導する。情報モラルの徹底をはかり、生徒指導通信を発行して啓発活動に努める。	B	【成果】挨拶が良くできる生徒がさらに増えた。服装等も岩高生にふさわしい生徒が大半であった。生徒指導通信でポケモンGOやネットトラブルに合わないよう喚起した。 【課題】スマホなどの使用時間が学習時間等を圧迫している現状に対応できるような工夫をしたい。
清 美			校内清掃による美化の推進に努める。ゴミの減量化と分別の徹底による地域環境を意識した活動を行う。清美委員会を中心に、生徒自らの手による整理整頓された学習環境作りを推進する。	B	【成果】清美委員、係職員が毎日ゴミステーションに立ち、ゴミの分別の補助をした。全職員にも交代で立ち番をしてもらい、校内のゴミの様子を認識してもらった。清掃用ロッカーの点検をし、用具の交換や数の確認をした。全校勤労日では生徒自ら校舎内外の清掃美化に努めた。年2回モップ交換。12月、委員で校内の落ち葉拾い。年度末、各学年クラスごとにワックスがけをする予定。 【課題】生徒会とも連携し、班室ゴミ出しの回数を増やしたい。二期制になり、年末大掃除の時間が取れなかった。できれば窓ふきなどもできるように時間を工夫したい。	

教育活動	指導	活 指 導	相談体制の充実	支援を必要とする生徒・保護者・職員サポート	相談室における教育相談体制を充実させ、生徒への周知を行うとともに、気軽に相談できる体制をつくり、カウンセラーの来校も周知徹底する。また外部相談機関の案内も充実させる。毎週（木②に）教育相談委員会を開催し、様々な相談に対応できるよう努める。今年度も「いじめ・悩み実態調査」を2回（5月と11月）実施し、教育相談体制の一層の強化を図る。	A	【成果】本年はカウンセリングを利用する生徒・保護者は12月までに延べ6人と例年より少なく、相談委員会でやっている相談室での面談も含め、相談体制は充実している。教育相談委員会は毎週実施し、教員間の情報の共有ができた。「いじめ・悩みアンケート」実態調査を2回実施し、問題の発掘・観察に努めた。生徒支援に必要な研修にも積極的に参加した。 【課題】今年度実施した活動の充実といじめ予防
		健康・安全確保と環境づくり	交通安全指導	交通安全指導	歩行者・自転車・バイク事故が起きないように交通安全指導を春2回、秋1回校風委員会や職員が協力して行うとともに、バイク通学者を対象に春と秋に自動車学校で交通安全教育を実施する。またスクエアードストリートによる自転車安全教室をLHRで全校生徒を対象に実施する。	B	【成果】計画通りにすべての交通安全指導等を実施することができた。 【課題】乗用車とバイク、特に自転車の接触事故が多発したので、交通事故を未然に防止するための活動が必要。
	健康・安全確保と環境づくり	健康・安全確保と環境づくり	健康・安全確保と環境づくり	生徒各自が自分の健康状態を把握できるような情報を提供し、学校生活の基盤となる身体や心の健康を築き上げられるように、支援する。また健康を害さない服装をするように、啓発をする。	B	【成果】生徒各自が自分の健康状態を把握できるような情報として、保健だより、文化祭における肺活量測定、日常的に保健室での血圧や体温、身体測定ができる工夫をしたことで多くの生徒が自分の体について考える機会を作ることができた。また、風邪予防について各クラスで保健指導をしてもらった結果10月以降の流行期に3年生インフルエンザ罹患者なし（H29.1.17現在）の結果がでた。心の健康は、保健室休養室内に相談啓発の張り紙を、校内には相談室の活用や、外部相談機関について張り紙を掲示するなど積極的に情報発信した結果カウンセラーの活用につながった。 【課題】今年度は、保健室来室者のみに服装指導をしたが、来年度は保健だよりなど用いて全校に情報発信していきたい。引き続き、保健情報の発信や健康相談を充実させ、生徒の健康に関する自己管理能力の育成を支援したい。	
	特別活動	自主的・自立的な生徒会	自主・自立した活動	自主・自立した活動	形だけが先行して中身の伴わない行動にならないように規律と自主性を第一義におき、挨拶運動、ボランティア活動、情報発信など前向きな活動に取り組む。	A	【成果】平成23年度から継続していた東日本大震災救援募金活動であるが、本年度は身内に被災した方がいる生徒もおり生徒の要望を優先して熊本地震救援募金活動を校内外でおこなった。リクル委員会ではエコキャップ推進活動に継続的に取り組んでいる。全校勤労日では学校周辺のゴミ拾いを実施した。情宣については掲示板やホームページを活用し、クラブや行事の活躍の様子を紹介、メッセージボードを企画し全校参加型の掲示活動も行った。中学生体験入学での学校紹介や生徒総会等各行事における段取り、運営も実施し大いに貢献した。 【課題】東日本大震災についてはいまだに出口が見えない方もいる。大災害が起きるたびにすべての皆さんに協力できるわけではないので、来年度以降どのように取り組んでいけばよいか検討を要する。エコキャップ運動も生徒は意欲的に取り組んでいるが、業者が別の用途に使用しているという報道もあり、別の取り組みを考えていく必要がある。各取組とも創意工夫を重ねることで活動内容の充実をはかる必要がある。
		文化祭の発表	文化祭の発表	文化祭の発表	企画・立案・運営のすべてを生徒自らが作り上げ、視野を校内にとどまらず地域や日本国内外に向けた発表要素を含む文化祭となるように支援する。地域の皆様に本校の良さを知っていただくために、魅力的な展示やイベントを企画することで、生徒や来校者の心に残る文化祭を目指す。	B	【成果と課題】月別計画表を作成し、生徒自ら文化祭を作り上げることが出来た。執行部中心に自主的に活動が行われており、各部署とも生徒主体の活動ができた。階段アート、展示教室への案内線も大変好評であった。いくつかの企画以外、クラス展の企画の枠を自由にした結果、「小児がん支援の募金」にかかわる企画など前向きなものが出てきてよかった。しかし、企画をうまく出せなかったクラスもあり、来年度以降検討する余地がある。工業科と完全分離して3年経ち、来場者数も減少傾向にある。活動の企画計画の合理化を推し進めながら、更なる活動内容の充実をはかる必要がある。
運動	クラブ活動の活性化	全活動の支援	全活動の支援	学習との両立をはかりながら生徒会活動、クラブ活動へ積極的に参加し、自主的・主体的活動ができるよう支援する。競技、種目毎の目標を持たせ心身と技術向上を目指す。	A	【成果と課題】本年度1学年は9割以上の生徒が班活動をおこなっており、徐々に活性化しつつある。生徒激減のため、班によっては人数が集まらず活動できなかった班もあったが、上位大会に久しぶりに出場する運動班があったりと意欲的に活動する班が増えてきた。来年度も積極的に班活動に参加するよう促したい。	
	地域活動の推進	地域での活動と交流	地域での活動と交流	委員会の地域清掃活動や班活動を発表する機会を積極的に持ち、地域貢献の実施と地域交流が深まるよう支援する。	B	【成果】清美委員会を中心に学校周辺の清掃活動をおこなった。班活動においては各種催し物に積極的に参加し地域との交流を図った。（生徒会執行部・飲酒撲滅キャンペーンに参加。ボランティア班は佐久平駅前を彩るイルミネーションの飾り付け作業を手伝い。等） 【課題】「イルミネーションの飾り付け作業」は顧問間の連携がとれず、例年参加している生徒会執行部は不参加になってしまった。生徒の意欲が落ちたわけではないので、来年度以降より緊密に連絡をとっていきたい。また、将棋班員がいなくなってしまうため例年参加している商店街の催し物に不参加になってしまった点も残念だった。	
	体験入学	体験入学	体験入学	体験入学を7月29日に実施する。体験入学を通して中学生に岩村田高校についての理解を深めてもらう機会とする。	B	【成果】体育館の耐震工事の中で混乱無く実施でき、中学生にも好評であった。（7/29） 【課題】体験授業の一斉実施の可能性を検討したい。（日程上に余裕ができるため）	
開かれた学校づくり	地域への情報発信	授業公開	授業公開	昨年度に引き続き土曜日授業（年9回）を公開とする。本校生の保護者はもちろん、中学生やその保護者、地域の方々、また本校職員にも授業を見てもらうことで、本校の教育に関する意見をもらいたい。いただいたご意見は有効に活用して授業改善や本校の教育力の向上に生かしていく。	B	【成果】これまでに土曜授業公開を8回行い、中学生、中学生の保護者、本校生の保護者など、延べ110名の参観を頂いた。授業感想を書いていただき、職員に提示し、授業改善に役立てることができた。特に中学生の来校が多く、手の空いてる職員がいるときには、校内を案内することができた。昨年までの土曜授業は4時間だったが、今年度は3時間で実施したので、クラブ活動などへの影響も少なくなった。 【課題】さらに多くの方に来校いただけるよう、情報発信を工夫していく。	
		学校紹介の充実	学校紹介の充実	「フォトニュース」等を通して、岩村田高校生の活動状況を中学校へ発信し、本校の魅力をアピールする。機会をみて、中学校を訪問し、本校の教育内容についての理解を深めてもらう。出前授業も積極的に実施したい。	B	【成果】中学校訪問を5校実施し、本校の教育内容についての理解を深めてもらうように努めた。浅間中学校での出前授業を10月26日に実施し、3名の教員が行った。「フォトニュース」はホームページの充実がはかれたので、それをもって発信をとりやめた。	
		ホームページの充実と活用	ホームページの充実と活用	ホームページをリニューアルし、魅力あるものとする。本校の日々の活動や、学校行事の様子、進学などの情報を的確に伝えるコンテンツを作成し、概要報告と画像も含めて随時発信していく。	A	【成果】年度途中でホームページを大幅にリニューアルした。特に学校長のページの「岩高NOW」はほぼ毎日更新し、その日の岩高のできごとなどを掲載し、各方面から好評をいただいている。	
	保護者・地域との連携	P T A との連携・要望の集約	P T A との連携・要望の集約	支部P T A（4月実施）、P T A 総会、文化祭のバザーなどのP T A 行事への保護者の積極参加を、学校ネット連絡システム等で呼びかける。保護者の意見・要望を学校職員に周知徹底するとともに、保護者に説明する。	A	【成果】4月の支部PTA（川上南牧と小海相木支部が統合し佐久南支部に全15支部）総会はスムーズに開催できた。参加率は昨年並みの70%であり有意義な懇談会になった。5月のPTA総会に続いた、文化講演会は元プロレスラーのアニマル浜口氏を講師に迎え「親子の絆 ～人生気合いだ！～」の講演を希望の生徒と聴いた。最後野球班の生徒と浜口氏との10連発の「気合い」は圧巻であった。その後の学級PTA（参加率約33%）では担任との交流ができた。7月の文化祭のバザーでは会員の減少の影響が心配されたがオクレンジャーを活用し積極的に呼びかけ売上は昨年並みになり生徒会に15万円寄贈した。	
営 員 研 修	学習指導の改善	教科における授業の研修・研究	教科における授業の研修・研究	講習会・研修会に積極的に参加し、情報を共有しながら授業力の向上に努める。また視察等を行い、生徒実態に対応できる部分から授業改善につなげる。公開授業でいただいたご意見を授業改善、本校の教育力の向上に生かす。校内での授業研究週間を2回設定し、研究授業・授業公開を行い授業力向上、わかりやすい授業を目指す。進路と連携しながら生徒対象の授業アンケート、年度末には生徒・保護者を対象に満足度アンケートを実施し、アンケートに寄せられた要望・意見を真摯に受け止め、教科内でも授業力向上への方策を研究する。総合教育センター等の各種研修会の情報を提供し、積極的な参加を促す。	B	【成果】7月模試の結果を受けて各教科で検討し、11月模試に向けての課題を共有した。（1.2年英語・数学・国語）8月末に校内向け授業参観（互見授業）・11月に互見授業週間を設けた。授業アンケートについては、二期制移行に伴い9月・1月に行った。アンケートに寄せられた要望・意見については学校長より各人へ手渡された。定期考査前に学習室以外でも勉強する生徒が多いため現状の調査を行った。 【課題】職員の外部研修の参加補助利用は、予定も含め1月現在2名である。利用を促し授業改善に結びつけていくことが今後の課題である。	
	職員人権・同和教育研修	研修会への参加励行	研修会への参加励行	今の高校生の人権にかかわる問題点と現状を職員が理解を深めることで、生徒が安心して学校生活を送れるような方策を考えていく機会とするため職員人権研修会を行う。	A	【成果】学校長を講師にして「生徒の人権と命の大切さ」をテーマに職員研修を行った。（5/25）あらためて生徒の日頃の様子に対して注意関心を払う良いきっかけとなった。	